

令和5年第1回木島平村総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和5年4月26日(水) 15:10～16:25

2 場 所 木島平村役場 議員控室

3 出 席 村 長 日 臺 正博
教 育 長 関 孝志
教育長職務代理者 角田 道夫
委 員 月岡 英彦
委 員 芳川 文子
委 員 梅寄 舞子

4 出席した事務局職員

子育て支援課長 島崎かおり
生涯学習課長 高木 良男
子育て支援係長 芳川 誠
生涯学習係長 湯本 敦

1 開催日時 令和5年4月26日(水) 15:30～17:00

2 現況報告

(1) 保・小・中学校の現況

【幼年教育（おひさま保育園）】

〈施設管理面〉

- ・立木の伐採等、その時々に対応していただいている。
- ・遊具や教材等について、特に早急に必要な物はない状況である。

〈運営面〉

- ・職員及び保育者の確保は年々厳しい状況ではあるが、見通しを持って対応している。
- ・保育の質の向上について日々研修を行うようにしている。
- ・保護者からのアンケートから寄せられた改善する事項については、直ちに改善するよう努めている。

〈課題〉

- ・オムツの持ち帰りを中止する保育園が増えてきている。本園についても今後、検討が必要である。

【木島平小学校】

〈施設管理面〉

- ・校舎周りや敷地内の環境美化に努める（庁務員が草刈り、田畑の管理を行う）。
- ・昨年大雪で校庭の器具庫が崩壊し、現在器具庫がない状況である。

〈運営面〉

- ・基礎学力の定着・向上を図るために、4年生～6年生の月曜日の6時間目を、アドバンスタイムとして位置づけ、月4時間、年35時間を確保し、前週の学習の学び直しや自学の時間とする。
- ・2年生以上の児童に、PC端末による学習の日常化、クラウドを利用した家庭学習を行う。
- ・ふるさと学習系統図を作成し、1年生から6年生までの6年間で学ぶ「ふるさと学習」に取り組んでいる。

〈課題〉

- ・ふるさと学習がすでに計画されていることもあり、今後、木育の学習を位置づけることが可能かを探る。

【木島平中学校】

〈施設管理面〉

- ・令和5年度に、校舎外壁改修工事を予定している。
- ・校舎は築40年経過し、老朽化が進んでいる。その都度修繕している状況がある。

〈運営面〉

- ・学級数によって、教員の配置数が異なることへの対応をしている。
- ・生徒の進路選択につながるために、個に応じた指導や基礎学力をつけるための授業を行っている。

〈課題〉

- ・高齢者が気軽に出入りできる校舎の造りになっていないこともあり、小学校のように地域の方が気軽に参観できない状況がある。

(2) 小中一貫教育としての取組み

- ・木島平村小中合同委員会が組織され、第1回の合同会議が開かれる。分科会は、生徒指導、特別支援、健康教育、生徒会・児童会の4つのグループに分かれ、年間通して児童生徒の学校生活

の充実を図るための検討をしていく。

・子育て、教育の教育観を共通すべく職員研修を行う。保育園年2回、小中学校年3回の授業公開研究会を相互に見合い、教育力の向上に努める。

(3) 高校生との交流及び共同学習

・地域連携コーディネーターを仲介とした、保育園交流、小中学校への乗り入れ活動等の充実
・中学校未来塾の講座に「高校生と創る地域づくり」が位置付けられ、地域を活性化させる「地域課題を学習課題」として行われる。これまで以上に深い関係（共同学習）になるようにしたい。

・下高井農林高校藤田校長に、木島平村学校運営協議会の委員になっていただいた。これまで以上に、木島平村の子育て・教育に高校生が参加する基盤ができた。

(4) ICT教育の推進

・小学校はスマイルネクストの学習クラウドを2年生以上の学年で使用、各教科の授業にとどまらず、家庭学習においても使用するようになる。紙ベースの宿題からPC端末を活用した学習へと変化した。

・中学校は、欠席の生徒への学習保障としてPC端末の貸し出し、学習内容によってPC端末の持ち帰りを行う。

(5) 木島平小・中学校の児童生徒数の推移

◇木島平小学校

令和4年	学級数13	教員配当基準14	(担任13 専科1)	229人
令和5年	学級数12	教員配当基準13	(担任12 専科1)	219人
令和6年	学級数11	教員配当基準12	(担任11 専科1)	205人
令和7年	学級数10	教員配当基準11	(担任10 専科1)	188人

◇木島平中学校

令和4年	学級数5	教員配当基準5	(担任5 専科3)	94人
令和5年	学級数6	教員配当基準9	(担任6 専科3)	107人
令和6年	学級数7	教員配当基準11	(担任7 専科4)	108人
令和7年	学級数8	教員配当基準13	(担任8 専科5)	118人

◇課 題

- ・小中学校ともに、特別支援学級は2学級編成で、特別支援学級の学級の編成基準は3人以上であり、この基準を維持するのは難しく、1～2人は不安定学級で講師配置の対応をせざる負えない。
- ・講師配置の割合が多くなっている現状を改善し、正規教員を計画的に配置したい。
- ・小学校には理科を主免とする教員がいない状況が数年続いているので改善したい。

3 協議題

木島平村第7次総合振興計画に向けて

テーマ「木島平の子育て・教育の充実が、移住者を含めた村の人口増につながる施策について」

次の3項目を視点に教育委員からご意見・要望がありました。

司会進行 日碁村長

Q1 どのような施策が人口増につながるか？

- 経済的負担軽減について
 - ・ 保護者負担軽減は重要であり、今後も対策を講じていく。
- 子どもたちの遊び場について
 - ・ 屋外で遊ぶ子どもたちが減ってきている。全天候型の遊び場があるとよい。
- 地域で子どもを育てることについて
 - ・ 大人から子どもたちへ、率先して挨拶や声掛けを行い、挨拶が交わし合える木島平っ子を育てていく。
 - ・ 村民が明るい、村全体が楽しく過ごす村づくりが、子どもたちにとって最適な教育環境につながる。
- 農村留学制度導入について
 - ・ 一村一校、農村地の特徴を活かし「農村留学制度」を導入したらどうか。冬はスキー、夏はトレルラン、自転車、昆虫採集、川遊びなど、自然を満喫しながらの学ぶことを提案したい。移住定住の情報基地としてファームスや農村交流館の活用も考えられる。

Q2 どのような子どもに育ててほしいか？

- 次世代をたくましく生きる力を身に付けさせたい。
- いろいろな局面で出会うさまざまな事象を、乗り越えていく力をつけさせたい。
- いろいろな経験を積み、自身の考えを柔軟にしてほしい。
- 多様性を受け入れ他者とともに歩める子どもを育てていきたい。
- 指示されたことを行うのではなく、自ら考えて行動を起こす子どもを育てたい。

Q3 Q2の子どもに育てるために、どのような方策が必要か？

- 「聴く」「訊く」ことを大事にして、自身が「発する」「表現」することができることを大切に
にする子どもとのかかわりを意図的につくっていく。
- 自己表現する力をつけさせていきたい。子どもたちの語彙数を多くし、語彙力をつけないと
言葉による表現力につながっていかない。音楽や芸術（アート）鑑賞も重要な要素である。
- ICT活用は不可欠、情報過多の時代に、自身が必要なものや確かなものを選びべる「判断力」
や「思考力」をつけさせたい。
- 小・中学校の学習ではベースになる力（基礎・基本）をしっかり身に付けさせたい。